

平成23年度 病害虫発生予察注意報第2号

平成24年2月7日

静岡県病害虫防除所長

病害虫名：タマネギ腐敗病

病原細菌：*Pseudomonas marginalis* pv. *marginalis*

対象作物：タマネギ

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内中部及び西部地域
- (2) 多発生が予想される時期：2～3月
- (3) 発生程度：多
- (4) 防除時期：2月上旬以降随時

2 注意報発表の根拠

- (1) 1月下旬の巡回調査の結果、タマネギにおける本病の発生ほ場率は70%であり、平年値(26%)を大きく上回った。また、ほ場における平均発病株率は19.2%(平年1.4%)と、発生程度も平年に比べ高かった。
- (2) 病原細菌について静岡大学に確認を依頼したところ、*Pseudomonas marginalis* pv. *marginalis*と同定された。本細菌は、無傷の健全植物を侵すことは少ないが、風害や霜害による傷害部分や害虫の加害部位から侵入し、多湿条件下で著しい被害をもたらす。病徴は、葉身に不定形な病斑を形成し、拡大融合して葉脈に沿って進展する。さらに葉鞘及び鱗茎組織に達し、鱗茎が腐敗することもある。宿主範囲は、ネギ、ラッキョウなどのユリ科作物をはじめ、アブラナ科、ウリ科などの作物を侵す多犯性の細菌である。
- (3) 昨年秋の風雨により感染したことや、今冬の干害によりタマネギの抵抗力が低下していることから、本病の感染・発病に適した環境となっている。今後、気温が上昇し、降水量が多くなると発生が助長される。

3 防除方法

- (1) 病原細菌は風雨により感染・拡大するので、気象情報に注意して、風雨の前後に薬剤を散布する。
- (2) 葉身や鱗茎の過度の生育・肥大は本病の発生を助長するため、追肥は適切におこなう。
- (3) 気温の上昇とともに被害が拡大することが予想されるため、収穫は例年よりも早めに行う。また、収穫は晴天時におこない、鱗茎を十分に乾燥させる。
- (4) 収穫後の植物残渣は本病の伝染源となるため、1ヶ所にまとめ、ビニールで被覆し菌を死滅させるなどして適切に処分する。
- (5) 貯蔵する場合には、通風をよくして本病の発生を防ぐ。万一貯蔵中に発生した場合

は伝染源となるため、罹病鱗茎を速やかに貯蔵場所から持ち出して適切に処分する。
(6) 不明な点は、病害虫防除所、農林事務所、農協等に問い合わせる。

4 その他

(1) ネギ、ラッキョウでも本細菌による病害発生の報告があるため、感染拡大に注意する。

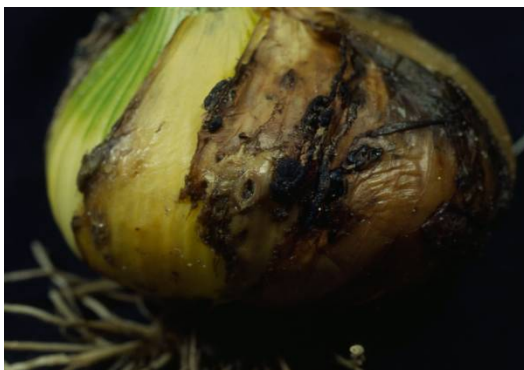
第1表 タマネギ腐敗病の登録薬剤

商品名	使用方法	希釈倍数	時期	回数
バリダシン液剤5	散布	500倍	収穫3日前まで	5回以内

<参考資料>



第1図 葉身及び葉鞘部位の病徴
葉身に生じた病斑（矢印）が拡大融合し、葉鞘に達する。



第2図 鱗茎の被害
被害が大きい場合には鱗茎に被害を生じることもある。